

施工パッケージ型積算方式の改良について



社会資本マネジメント研究センター 社会資本システム研究室
 研究官 吉田 武教 主任研究官 森 芳徳 交流研究員 竹屋 宏樹
 交流研究員 牧野 淳 室長 関 健太郎

(キーワード) 施工パッケージ、積算

3.

生産性革命 (i-Construction) の推進、賢く使う

1. 施工パッケージ型積算方式とは

施工パッケージ型積算方式は、積算業務の効率化及び積算価格の透明性向上等を目的に導入したユニットプライス型積算方式を改良したものである。

本方式は、機械経費・労務費・材料費ごとに積上げる必要がなく、条件区分ごとに設定された施工パッケージ(416パッケージ)を選択する方式であるため、積算業務の簡素化や効率化が期待されている。

2. 導入の効果及び課題

2017年上半期に実施した導入効果に関するアンケート結果の一部を図-1に示す。

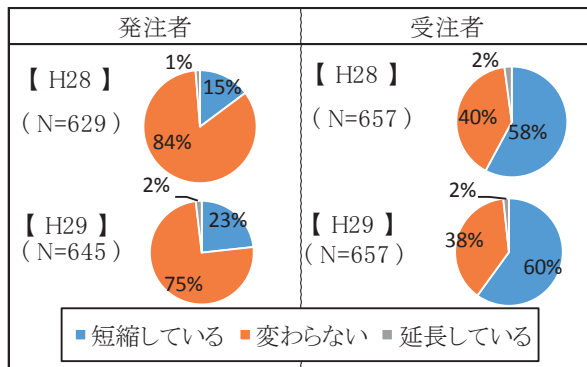


図-1 積算に要した時間の回答結果

積算に要した時間については、発注者で約2割、受注者で約6割が「短縮している」との回答が得られており、特に受注者からおおむね良い評価が得られている。これらについては、導入後の時間経過に伴い、理解度が受発注者ともに深まることが予想されるため、今後さらにその効果が発現されると考えられる。

一方で、受注者からは「現場条件との乖離(設計値が標準単価の適用範囲の上限値の場合や一定規模以下の場合、単価が合わない等)」との意見が多い点が課題として見受けられた。

3. 課題への対応

これらの課題の要因としては、舗装厚さなどの設計値を「〇〇mmを超え〇〇mm以下」のように設計値の範囲で区分化した施工パッケージでは、区分ごとに標準的な舗装厚さ設定し、標準単価を算出しているため、積算金額と受注者の積算金額に乖離が生じている可能性等が考えられる。このことから、対策として舗装厚さに応じた金額を積算できる方式(図-2)の適用の拡大を行った。

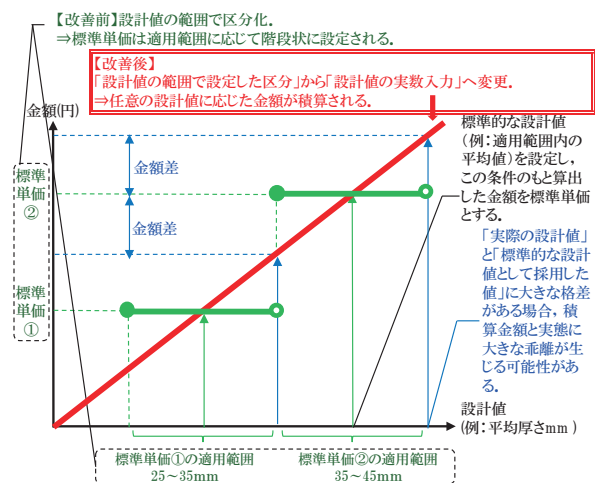


図-2 舗装厚さに応じた金額を積算できる方式のイメージ

4. おわりに

現在設定している施工パッケージの配下に条件区分毎に設定されている標準単価の数は1万個以上有り、今後は、これらが実勢価格と乖離しないように適時見直しを行っていく必要がある。そのため、膨大な数の標準単価と実勢価格の関係について、効率的にモニタリングする手法が必要であり、現在その手法について検討を進めているところである。